

KG ホールディングス株式会社と「サステナビリティ・リンク・ローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち}半沢 淳一）は、KG ホールディングス株式会社（代表取締役 兼子 卓三、以下 KGHD）との間で締結していたローン契約について、今般、ローン・マーケット・アソシエーション^[1]等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した「サステナビリティ・リンク・ローン」形式の変更契約（以下 本契約）を締結いたしました。本契約は、Trustar Capital グループの投資ファンド等が株式会社兼子商店^[2]へ資本参加を行うためのローン契約に基づくものです。

サステナビリティ・リンク・ローン原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンスターゲット（以下 SPT）を設定し、金利などの貸付条件と SPT に対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPT 達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

本契約では、KGHD の中核会社である株式会社兼子（代表取締役社長 兼子 卓三、以下 兼子）における古紙回収量の純増を SPT として設定し、SPT 達成状況に応じて優遇金利が適用されるインセンティブが付与されています。

兼子は、主に企業から排出される古紙の回収から再資源化、またプラスチック及び金属などの廃棄物の収集・運搬・中間処理までを、自社にてワンストップでサービス提供を行う総合リサイクル事業者です。SPT として設定した古紙回収量の増大は、KGHD が特定した6つの重要課題のうち「リサイクル・再資源化・廃棄物削減の強化によるグループ一体での事業活動の促進」、及び「お客さまのサーキュラーエコノミーの実現」と直結する目標として、グループにおいて重要な位置付けとなっています。また、事業成長と社会における環境負荷低減を両立する目標として、グループ全体の事業拡大および環境を含めたサステナビリティへの取り組みに貢献します。

本契約では、株式会社日本格付研究所（以下 JCR）より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠、設定した SPT の合理性について第三者意見を取得しています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループは、「MUFJ Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に65ヶ国以上約800機関が加盟。

[2] 兼子グループの持株会社。Trustar Capital が資本参加を行うために設立した SPC（KGHD）との吸収合併を経て、現在持株会社としての機能は KGHD が担っている。